

特定非営利活動法人山村塾

2024

年次報告書

Annual Report



こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾

1 活動コース（稲作コース・山林コース）と里山ミニワーク

2024年度は、家族参加や一般参加のしやすさを考えて活動コースの**参加費を見直す**とともに、会費改定にあわせて「稲作30kg+山林コース」を新設しました。会員数は微増、新規入会は10組と増加しました。5年ぶりに子どもキャンプを開催するなど、行事・ミニワークの開催回数と参加者数も増え、活動が賑いました。（2023年度29回715名→2024年度35回807名）



5年ぶりに開催！山村塾の子どもキャンプ（2024/8/1～3）

【活動コース行事（稲作・山林・全体行事）】

活動場所：四季菜館、稲作コースの棚田、えがいの森、ケヤキ林、炭窯等
回数：25回/25日間（2023年度23回）
参加者：延べ681名（2023年度626名）
スタッフ：延べ166名

【里山ミニワーク】

活動場所：四季菜館、えがいの森
回数：10回/16日間（2023年度6回）
参加者：延べ126名（2023年度89名）
スタッフ：延べ74名

活動コース会員数

活動コース	2022	2023	2024
稲作山林	7 (0)	5 (0)	4 (0)
稲作30kg山林	-	-	6 (0)
稲作	23 (2)	23 (1)	23 (3)
稲作30kg	18 (7)	16 (4)	12 (3)
山林	13 (2)	15 (0)	13 (3)
古里	7 (1)	8 (1)	11 (1)
計	68 (12)	67 (6)	69 (10)

※（ ）内は新規会員数

コロナ禍に東京から福岡市内に移住したのは4年前。福岡市内だけでは満足できず、里山に魅了されて八女市に2拠点目の家を借りました。大家さんに山村塾を紹介していただき、2年前に稲作コースに入会。空気がおいしくて、土の匂い、足の裏から感じる感触を通して生きる喜びを感じています。

自然の中にいる時、子供たちの目がイキイキと輝いて見えます。農作業中に暑い・しんどい・長いと文句を言うこともありますが、作業後は笑顔で楽しかったーと毎度清々しい顔っ！！当時4歳の娘は鴨を絞める作業も、捌く作業も、怖い怖いと言いながらもすぐにできるようになり、今では一番好きな作業が捌いた鴨の内臓処理、肝の砂おとしと言うから頼もしいものです。

東京生まれ東京育ちの子供たちも2年目にしてやっと作業にも慣れてきたように思います。そんな私たちの生活を知る福岡の友人たちは、「私たちよりも福岡を満喫しているね」と、時にからかってきますが、私は誇らしい気持ちでいっぱいです。

稲作コース会員 加藤 真規子さん



宮園家の在来茶園の手入れを行いました
（2025/2/23 山林コース「茶畑手入れとしいたけ菌打ち」）

「活動コース」は、農林家と一緒に、棚田や山林の手入れで汗を流したり、里山体験を楽しみながら、山村の環境を守る活動を行っています。年間を通じて、四季折々の農林作業を体験できます。

最新のイベント情報はホームページより→
<https://sansonjuku.com/>



活動コース行事の運営体制整備

多くの参加があっても安全で楽しい活動を実施していくために、経験ある会員の中から有志を募り、**運営サポーター**として活動を支援いただく仕組みを目指しています。

2024年度は、運営サポーターの役割や仕事内容を整理した「運営サポーターマニュアル」、行事参加時の連絡事項や注意点をまとめた「活動コース会員のしおり」を作成しました。

また、事務局と受入農家、会員を対象とした安全講習会を実施し、活動時の緊急時対応を確認しました。今後も運営サポーターの参加を呼びかけ、体制の充実を図っていきたいと考えています。

※サンライズ財団環境助成の支援を受けて実施しました



[活動コース会員のしおり](#)
[PDFダウンロード↓](#)



いろいろな生き物と共存する森づくり



2024/4/6 シンポジウム「いろいろな生き物と共存する森づくり」（参加84名）

30年を経過した「ケヤキ林」事業の成果を振り返り、今後の整備方針や活用方法を検討するにあたり、まず4月にシンポジウムを開催しました。多くの方々とともに生物多様性に配慮した森づくりや、人と森との関わりについて考える貴重な機会となりました。

その後も九州大学朝廣研究室の協力を得て調査や将来ビジョンづくりを進め、概ねの整備方針を固めることができました。今後は、大きな樹木から小さな樹木までを対象に10～30%の間伐を行う「全層間伐」という手法を用い、いろいろな生き物が住む広葉樹の森を目指していきます。

※国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて実施しました。

2 里山での福祉～「社会福祉法人たからばこ」との森林整備

参加人数：延べ225名

実施開催：25回（勉強会4回、薪置き場設置1回含む）

活動内容：広葉樹の森林整備、薪づくり、薪運び、しいたけ菌打ち、森林療法勉強会



薪小屋完成！

昨年度に引き続き、毎月2回、約12名が集まり、グリーンピア八女の遊歩道沿いにある広葉樹フィールドで、森林整備と薪づくりを行いました。同じ場所で同じ内容の活動を2年間継続したことで、障がいのあるメンバーそれぞれの**得意な作業や好きな作業**をコーディネートできるようになってきました。サポートに入るボランティアが増えたことにも助けられました。

森林整備でつくった薪は、たからばこ施設のウッドボイラーの燃料として活用され、お風呂の給湯や暖房の熱源となっています。年度末には、薪小屋（幅4.5m×奥行0.9m×高さ2m）を施設横に建設し、薪となる丸太をたくさん山から運び出せるようになりました。

3月には、東京農業大学教授の上原巖先生をお招きし、森林療法勉強会を実施しました。近隣の特別支援学校や放課後デイサービスの関係者が参加し、森林療法に取り組む人たちが地域で広がっていく可能性を感じました。先生の提唱する「森も人も元気に」なる活動をこれからも目指していきたいと思います。

※一般財団法人セブン・イレブン記念財団2024年度環境市民活動助成を受けて実施しました。



バケツリレー方式で薪の運び出し（2024/7/23）

3 合宿・日帰りボランティア

フランスのシビック・サービスというプログラムを通じて、マリーヌさんが4～10月の半年間活動しました。また今年は**過去のボランティア経験者**3名（台湾から2名、日本1名）が再び山村塾を訪れ、2～3週間の活動を行ってくれました。勝手知ったる頼もしいメンバーが、体験や研修受け入れに忙しい事務局をサポートしてくれて、とても心強かったです。



棚田でのラッキョウ収穫（マリーヌ@フランス、グッジョブ@台湾と日帰りボランティアの皆さん）



上：棚田の石垣草取り作業
右：カシロダケの竹林整備



▶ワークキャンプメンバーの活動ブログ
<https://egaonomori.exblog.jp/>



- 1.日帰りボランティア（4月～3月：23回）
参加者：延べ65名（2023年度54名）
 - 2.黒木youthワークキャンプ（7/21～7/28、参加7名）
 - 3.WHABITATワークキャンプ（8/31～9/4、参加8名）
 - 4.週末ワークキャンプ（3/15～16、参加2名）
 - 5.中長期個人型ボランティア 参加者6名、延べ276人日
・4/19～5/28（40日間）・4/25～10/14（173日間）
・5/28～6/12（16日間）・6/19～6/27（9日間）
・7/29～8/20（23日間）・11/4～11/18（15日間）
- ボランティア活動日数 205日、延べ441人日

平日の日帰りボランティア

新しい常連さんも加わり、昨年度よりも参加人数が増えました（延べ54名→65名）。棚田や梅林、ヤギ牧場などのフィールド管理に欠かせない取り組みとなっています。ありがとうございました！



日帰りボランティアによる笠原棚田牧場の電気柵修理

企業からのボランティア

2009年度のパッチワークの森づくり事業へのご支援をきっかけに、毎年のご寄付に加えて、年1～2回、KDDI株式会社九州総支社の社員の皆さんにボランティアに来ていただいています（コロナ禍や天候不順時を除く）。

2024年度は2月15日に7名の方々が参加され、**竹林整備**や**棚田の石垣の草取り作業**に汗を流していただきました。石垣の草取り作業は、KDDIの皆さんとの活動をきっかけに、稲作コースや日帰りボランティアでも実施するようになり、今では山村塾の定番メニューになりました。一日の活動はあっという間ですが、継続した取り組みによって、棚田や里山の風景が守られていることを感じる一日でした。

4 研修事業

令和6年度自伐林家育成研修

主催：福岡県 企画運営：山村塾

自伐林家育成研修は第7期を迎え、全15回の研修を実施しました。**過去修了生の方が講師や講師補佐**に加わり、事業を継続してきた成果を感じることができました。



雪にも負けず伐木造材の研修を実施

開催場所：八女市、久留米市 受講者数：7期生9名、修了者5名
実施日程・回数：8月～3月 全13回、修了者向け研修2回

会員歴15年ながら、なかなか触る機会が少ないチェーンソー。手鋸での伐竹はやるもチェーンソーでの伐木になかなか手が出ず。技量を得たいと思っていた中、タイミングよく自伐研修に参加できました。

安全なスキル習得を目的に、計19日の研修は内容充実、大満足でした。刈払機・チェーンソーを動かすだけでなく、仕組み・手入れも学び実践、バックホウ（ユンボ）の操作も。基礎的な知識と技量をついたので、忘れない様にしっかりと実践で頭と腕を磨いていきます。

この研修の素晴らしかったのはそれだけでなく、仕組みや人との縁。新しい仲間（同期9人）、旧知ながらスキル満載の講師陣、二回り近く若い講師、神のような講師、サポート頂く研修卒業生、色々な方との交流は楽しく、役に立つ、大変貴重な機会でした。今度はこの素晴らしい場をしっかりとサポートもしたいと思います。

自伐林家育成研修 受講生 石津 和紀さん

福岡県森林づくり活動安全講習会

主催：福岡県 企画運営：山村塾

手道具の使い方、チェーンソーや刈払機の基礎的な使用方法、竹林や人工林の手入れなど、毎年好評で多くの参加があります。近年は**森林ボランティア未経験**の方の受講が増えてきたようです。この事業をきっかけに森林ボランティアが増えることを願います。

開催場所：八女市、久留米市、福岡市、北九州市、飯塚市
受講者数：延べ184名
実施日程・回数：5月～1月 全12回（延べ14日間）

草刈機・チェーンソー講座

チェーンソー基礎講座は、基礎とトレーニングの2回セットを前期と後期にそれぞれ実施しました。これまでに比べて参加者が増え、**基礎的なことを学ぶ**場の必要性を感じています。週末の活動スケジュールが過密なため、定期開催に向けては日程調整が課題です。

開催場所：えがおの森 受講者数：延べ35名
回数：チェーンソー基礎講座4回、草刈機講習会2回

研修受入事業

コロナ禍で停滞していた**宿泊形式の団体受け入れ**が増加しました。5年ぶりに九州大学芸術工学部環境設計コース新入生の合宿研修を実施（4/20-21、34名）したほか、全国の森林ボランティアが集まる「森林と市民を結ぶ全国の集いフィールドセッション」（6/1-2、35名）、さらに台湾で棚田保全に取り組む団体「和禾聚落（ホーホー集落）」（6/6-9、23名）の視察研修受け入れなど、初めての取り組みも含めて大変な賑わいとなりました。

山村塾の取り組みに関心を持つ多くの方々に来ていただき、大きな刺激をいただいた一年でした。



全国の皆さんがケヤキ林などを見学
森林と市民を結ぶ全国の集い（2024/6/1-2）

5 笠原棚田米プロジェクト



「笠原棚田米プロジェクト」生産農家の皆さん

2013年11月の発送からスタートした「笠原棚田米プロジェクト」は11年目を迎えました。2024年に始まった**令和の米騒動は棚田米プロジェクトにも大きく影響**し、初めてサポーター申し込みを制限しました。

米不足ををきっかけに棚田に関心を持つ人が増えたことは喜ばしいことです。これからの棚田の風景を守っていくためにも、生産体制の維持や強化に向けて農家の皆さんと考えていきたいと思っています。

【2025年3月時点】

サポーター数：112名（個人109、企業3）

参加農家：8軒

取扱俵数：140.25俵（2023年度より17俵増）

守られている棚田面積：23,375㎡（2023年度より2,833㎡増）

（140.25俵→233.75 a 収穫6俵／10 a として）

※企業・団体として、新日本製薬株式会社、うなぎの大東、羊の和。

ご寄付について

90名の方々から**計2,296,271円**のご寄付を頂戴しました。

山村塾の取り組みを応援いただき、誠にありがとうございました。

寄付金内訳

一般寄付金701,057円、ヤマヤマ基金1,571,056円

笠原棚田牧場寄付金24,158円

【ヤマヤマ基金とは】

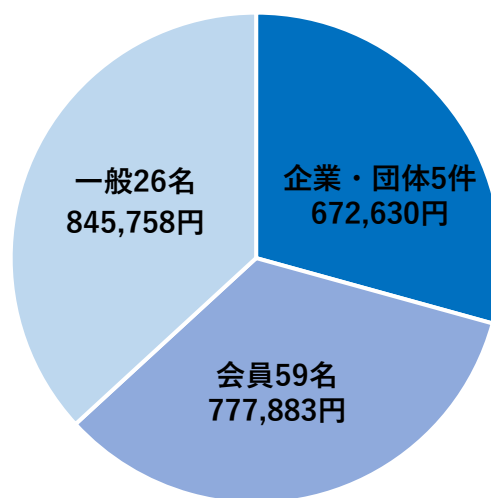
任意団体だった2003年にスタッフ賃金確保を目指してスタートしました。これを機に人件費を予算化し、現在の事務局の雇用につながっています。ここまで活動を継続出来ているのは**皆さんからのご寄付のおかげ**です。今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。

※グラフ中の会員とは、NPO会員・活動コース会員・笠原棚田米サポーターです。

※賛助会費は受取会費に計上し、この金額には含まれていません。

※認定NPOの要件となるPST判定の寄付者数は**130名**（賛助会員を含む3,000円以上の寄付者）でした。

寄付金内訳（寄付者属性）



▶企業・団体からのご寄付について

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、KDDI株式会社九州総支社、嵯峨野株式会社（古本募金きしゃぼん）株式会社アスタス（OSUSO）

※ホームページもご覧ください。 <https://sansonjuku.com/news/archives/category/news>



2024年度
財務諸表

活動計算書 (2024年4月1日～2025年3月31日)

科目		金額(円)
経常収益	受取会費	443,000
	受取寄附金	2,296,271
	受取助成金・補助金	2,719,095
	事業収益	13,524,416
	自主事業収益	16,426,133
	受託事業収益	
	その他収益	8,036
経常収益計		35,416,951
経常費用	事業費	8,850,149
	人件費	5,100,332
	商品仕入高	3,015,414
	諸謝金	3,820,946
	業務委託費	971,121
	食材料費	1,990,027
	消耗品費	7,127,122
	その他経費	1,306,957
	管理費	960,430
	人件費	
	その他経費	
経常費用計		33,142,498
経常外収益		0
経常外費用		4,173
法人税		71,000
当期正味財産増減額		2,199,280
前期正味財産増減額		-1,595,600
次期繰越正味財産増減額		603,680

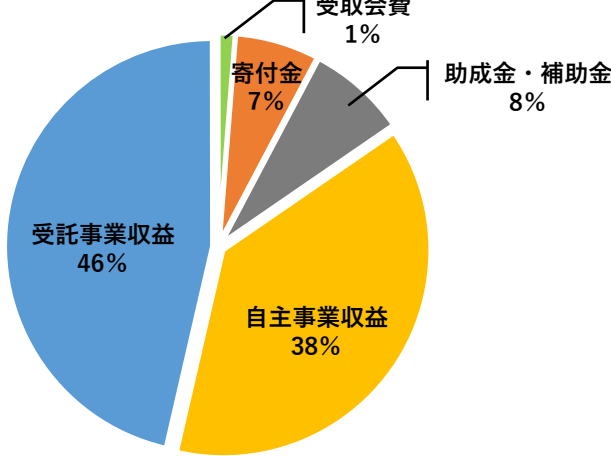
▶自主事業収益 内訳

- 活動コース年会費収益 15%
- 棚田米サポーター会費収益 32%
- 参加費収益 15%
- 農産物販売収益 25%
- 利用料収益 3%
- その他 10%

貸借対照表 (2025年3月31日現在)

資産の部			負債の部		
科目	金額(円)		科目	金額(円)	
流動資産	現金	292,169	流動負債	未払金等	10,428,499
	預金	9,406,328		流動負債計	10,428,499
	棚卸資産	2,291,600	固定負債	長期借入金	2,652,500
	未収入金等	1,338,457		固定負債計	2,652,500
	流動資産計	13,328,554		負債の部 計	13,080,999
固定資産	建物	79,561	正味財産の部		
	車両運搬具	1	正味財産	前期繰越正味財産	-1,595,600
	機械装置	276,563		当期正味財産増減額	2,199,280
	固定資産計	356,125		正味財産の部 計	603,680
資産の部 合計		13,684,679	負債・正味財産の部 合計		13,684,679

財源構成



2024年度総括

5年ごとに行われる認定NPO法人更新手続きを無事にクリアすることができました。継続的にご寄付くださる方が増えており、大きな支えとなっています。皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。

前年度は赤字決算となりましたが、2024年度は事業数を拡充し、研修や体験活動の依頼、合宿ボランティア事業の参加人数が増加するなど、忙しくも充実した一年でした。次の展開を見据えて、運営体制・実施体制を整えていきたいと思っています。

ご支援のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄付で支えられています。
山村の暮らしに学び、山村の環境を守る取り組みに
ご協力をお願いします。

山村塾は、運営組織や経理が適正で、事業活動に公益性が保たれていることが認められ、
2020年3月19日付で、福岡県より「認定NPO法人」として認定されました。

認定NPO法人制度は、NPO法人への寄付を促すために国が設けた税制優遇制度です。

山村塾へのご寄付は、確定申告することで寄付金控除の対象となります。

<参考>内閣府NPOホームページ（認定制度について）

<https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo-kisochishiki/ninteiseido>



▶ご寄付の方法：払込取扱票をご利用、または下記口座へお振込みでご寄付をお願いします。

郵便振込口座から

【加入者名】 特定非営利活動法人山村塾
【口座番号】 01790-3-169398

銀行から

【金融機関】 ゆうちょ銀行 【店名】 一七九（店番 179）
【口座番号】 当座0169398

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスを事務局までお知らせください。



こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾

山村塾は1994年に2軒の農林家と会員有志によって、棚田と山林を守る取り組みをスタートしました。都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや豊かな生態系の森づくりを通じて、山村の環境を守る活動と、その活動を支える交流や人づくりを行っています。

認定NPO法人山村塾

〒834-1222福岡県八女市黒木町笠原9836-1

TEL・FAX：0943-42-4300 E-mail：info@sansonjuku.com

<https://sansonjuku.com>



@sansonjuku



@sansonjuku_official



山村塾 YouTube

検索



山村塾
ホームページ